

## 第2回産研女性サミット 開催報告

1月26日に、産研の女性所員が所内でより一層活躍できる環境の構築に向けて、産研所属の全女性所員を対象にして、立場の垣根を超えた忌憚のない意見を交換するための第2回産研女性サミットが開催されました。女性教職員を対象とした第1回目から、学生を含む全女性所員に拡大し、英語での対応もしました。感染症対策のため、オンライン参加者がメインになったため、参加者同士の交流・討論は出来ませんでした。参加者は、所外、学外からの参加者を含む105名が参加しました。

2020年12月に発足した「産研協働推進チーム」の紹介と産研のダイバーシティ推進についての関野 徹 所長のご挨拶から始まり、工藤 眞由美 理事・副学長、男女協働推進センター長より、ダイバーシティ推進を加速させ、一緒に変えていきましょう、と激励のメッセージの後に、参加者は提供されたランチに舌鼓を打ちながら、産研協働推進チーム・チームリーダーの服部 梓 准教授からダイバーシティ&インクルージョン推進の意義と個人の姿勢と課題について、緩やかな内容で講演がありました。最後に男女協働推進センター兼任教員 家 裕隆 教授から閉会の挨拶があり、サミットは幕を閉じました。

参加時の事前アンケートでは約70%の参加者が大阪大学の行っているダイバーシティインクルージョン活動をよく知らないと回答し、関心の少なさが浮き彫りになりました。事後アンケート(60名が回答)では、約90%の参加者がサミットの内容に満足し有意義であり、80%以上の参加者が大阪大学の実施しているダイバーシティインクルージョン活動についての理解が深まったと回答しました。

産研協働推進チーム・チームリーダー服部 梓 准教授は「ダイバーシティインクルージョン活動は大学執行部のため、女性研究者のためだけに行っているのではなく、すべての構成員(男性、女性、教員、職員、学生、国籍の区別なし)のためのものです。誰かが進めてくれるから私なんて、、、という無関心をやめて、個々人が小さな挑戦を始めて、より良い産研の実現を目指していきましょう。”SO GOOD SANKEN!”ですね。」と語っていました。産研協働推進チームメンバーで、サミットの司会を務めた奥村 由香 技術職員は、「この活動を通して、構成員全員が産研は楽しく研究できる、働ける研究所となって、阪大のロールモデルになれるように頑張りたいですね。」と抱負を述べていました。

産研協働推進チームは、全所員がそれぞれの個性を武器として、失敗を恐れず新たな自分に向かってわくわくしながらチャレンジし続けることができる環境を目指して、男女協働推進だけでなく、広範にわたる、ダイバーシティ&インクルージョンの推進活動を進めています。ランチサミットにかかわらず色々な活

動を主導、支援していきます。所員皆様の積極的な参加、応援をお願いします！

